

静岡県こどもの国の構想と地学景観

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 和田, 秀樹 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025346

静岡県こどもの国の構想と地学景観

和田 秀 樹*

新聞報道などで既に発表された“静岡県こどもの国”（仮称）計画は、本年8月24日に第1回の基本計画策定委員会が開かれた。この計画は、昨年度“子供の国基本構想”が提示され、基本理念・基本方針が示された後、富士市・沼津市などが誘致活動を行い、本年富士市に建設することが決定した。

本施設は、静岡県が建設する文化施設としては最大級であり、建設される場所も、富士山麓と愛鷹山麓の中間付近となり、地学的にも興味多いところである。本計画は現在進行中であり、最終的にどのような施設ができるかは不確定の部分が多いが、一部でも完成された場合、地学会の会員にとっては、個人的に家族と共に過ごす野外活動の場としても、また学校の野外活動の地学教育施設としても、おおいに利用できるのではないかと思われる。現在までに示された基本計画のあらましと建設予定を紹介する。

基本構想とゾーニング

静岡県が示した基本構想のなかで基本テーマというものがある。そのキャッチフレーズは、“森、水、大地そして友、夢と感動を求め、のびやかに生きる”である。規模としては、約200ヘクタールの用地を確保しており、全国の類似施設のなかでは最大級である（表1を参照）。“静岡県こどもの国”は、従来のテーマパークや遊園地とは違って、(1)自然環境の保全、(2)森を守り森を育てる、(3)地形の特色

表1 全国こどもの国の状況

名 称	設置者	所在地	面 積	開設
北海道こどもの国	北海道	砂川市	233ha	53年
福島県霊山こどもの村	広域市町村圏	霊山町	30ha	47年
千葉県こどもの国	千葉県	市原市	20ha	46年
中央こどもの国	厚生省	横浜市	96ha	40年
山梨県愛宕山こどもの国	山梨県	甲府市	42ha	46年
愛知こどもの国	愛知県	幡豆町	100ha	49年
岐阜県こどもの国	岐阜県	養老町	10ha	55年
鳥取砂丘こどもの国	鳥取県	鳥取市	13ha	48年
沖縄県こどもの国	沖縄県	沖縄市	13ha	47年

*静岡大学理学部地球科学教室

を生かす、(4)水の導入、(5)富士山と愛鷹山の景観、(6)鳥、動物、生物の保護について、(7)新しい魅力をつくりだす、と言った指針に示されているように、自然の地形や動植物を、できるだけ自然のままテーマのなかに取り入れて行こうとしている。ただし(4)については、富士山麓全体の溶岩やスコリア等の多い地質から、流水が殆ど得られないため、もし作るとすれば、地下水を汲み上げることになり、自然環境の保全の観点からは好ましいことではない。

こどもの国は、いくつかのゾーンあるいは小国と呼ばれる枠組みがなされ、自然の構成要素をテーマとしている。森の国、地の国、草原の国、野の国、水の国などである。地の国では土との触れ合いを、大地の造形を通して行うとしている。詳細については、もうすこし計画がはっきりした段階でまた、紹介したい。日本のシンボル、富士火山の広大な裾野で、溶岩トンネルや溶岩流に直に触れ、静寂な富士と活動的な富士の両面が体験できるような施設が望まれる。

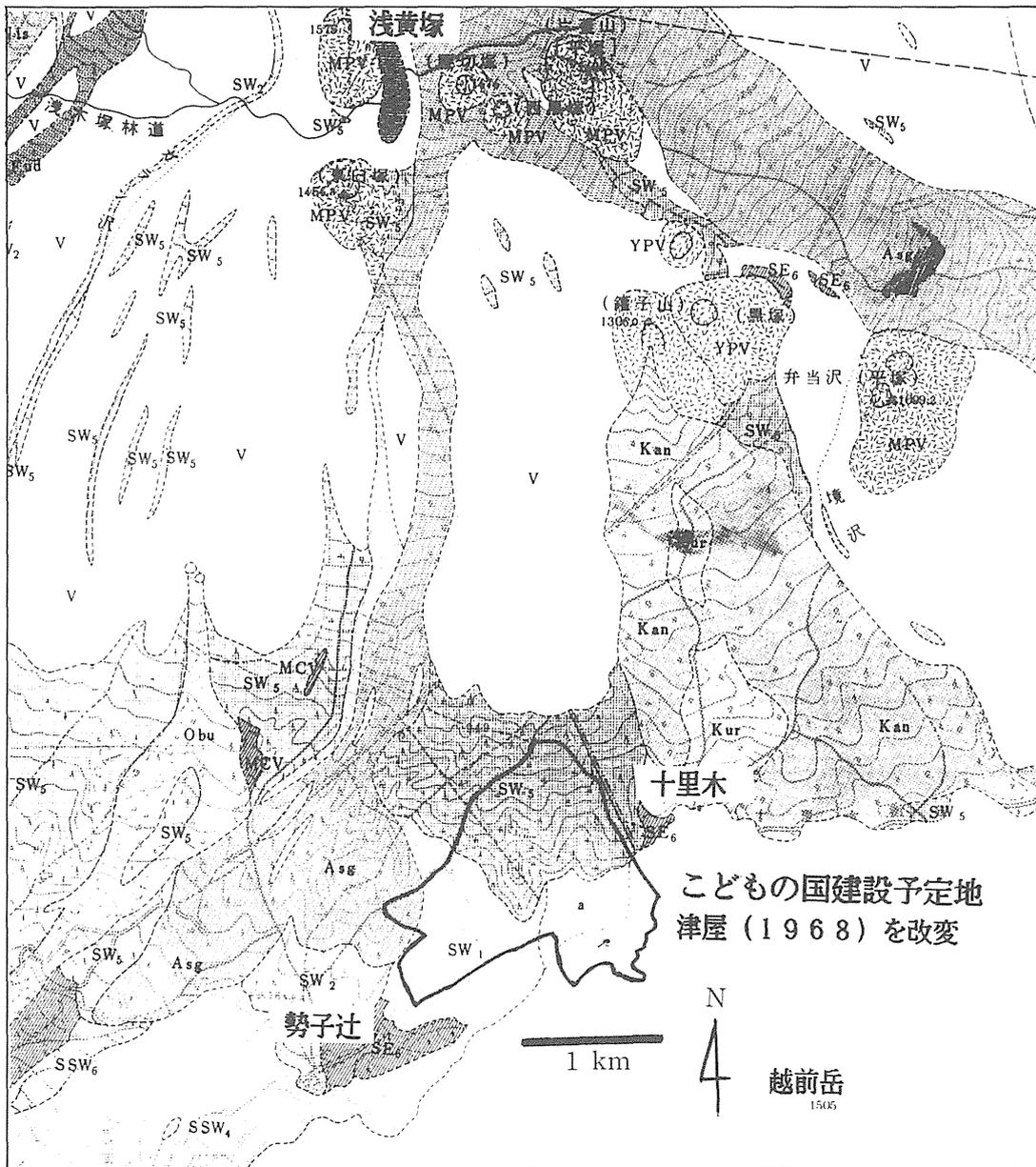


図1 こどもの国建設予定地周辺の地質図

こどもの国建設予定地について

第1図に示されるように、富士山麓と愛鷹山麓が接する地域に当たり、標高800メートルから930メートルまで、高度差130メートルである。地形は北に向かってなだらかに高度を増し、所々に溶岩塚による高まりが見られる。

予定地のほとんどは新富士火山の溶岩流の上に位置し、津屋(1968)の地質図からは、SW1、SW5の溶岩流が区別される。西の端には、浅黄塚溶岩流が流下しており、ちょうどその末端部が見られることになる。地形的には溶岩塚になっており、なだらかな膨らみが見られる。SW1溶岩は山頂方向から流下し、勢子辻において愛鷹山麓に突き当たり、流下方向を南西に変えてSSW4という溶岩流を覆うように流れ、富士市桑崎まで達している。

主要地方道富士裾野線の南西側は、愛鷹山麓の尾根が西に張り出しており、この尾根の北側の平坦な土地には、製紙工場の産業廃棄物(製紙スラッジ)が投棄されたことがあり、現在は一部排水が悪くなり、湿地帯となっている。

前にも述べたように、この計画は現在基本計画策定中であり、今後環境調査・用地調査・地形測量・地下水調査などが行われる予定である。現在ほど多くの人が開発と環境保全の調和に関心のある時代はかつてないと思われる。21世紀に向けての大規模な施設だけに、自然環境との調和のとれた施設作りとして注目される。